

## 災害を織り込んだ物語・作品の例

### 1. 映画、テレビドラマ、演劇

- 「ありがとう」(配給/東映 監督/万田邦敏 主演/赤井英和、田中好子)

文部科学省選定 2006年11月25日全国ロードショー

原作は、今もシニアツアーで活躍中のプロゴルファー古市忠夫氏を主人公としたノンフィクション「還暦ルーキー」。古市氏は神戸市鷹取商店街でカメラ屋の店主をしていた時に阪神・淡路大震災で被災し、友も、家も、財産も失うが、還暦を目前に念願のプロテストに合格する。

映画は、この実話をもとに、震災で崩壊した街の復興と、古市氏自身のプロテストへの挑戦、そして、それを陰で支える夫婦愛を物語の軸としている。



### 2. 小説

- 「島原大変」(白石一郎著 文春文庫 初版1989年)

寛政4年、島原の前山の大噴火が地震と津波を誘発し、島原の城下町は一夜にして埋没、砂漠と化した。大自然の猛威の前に崩れゆく小藩の運命と恐怖におののく藩主、武士、医師、町民の姿を、島原藩御抱えの青年医師の目を通して描いたパニック小説。



### 3. 漫画等

#### ○「激濤」(矢口高雄著)

1983年の日本海中部沖地震で津波が起きた。104人の死者を出し、秋田県では83人、うち12人が釣り人だった。秋田の釣り人のグループがその体験を聞き取り、同地出身の漫画家矢口高雄が1989～90年に「ビッグコミック」誌でコミカライズしたもの。矢口氏は、「犠牲者の無念さや、遺族の方々の深い悲しみを思うとき、迂闊には扱えないテーマと肝に銘じてフィクション形式をとった」(あとがき)と述べている。



#### ○「彼女を守る51の方法 都会で地震が起こった日」(渡辺実/監修、彼女を守るプロジェクト/著、マイクロマガジン社)

大地震に見舞われた時に彼女を守る方法と、震災時に必要となる基本的な知識を収録。災害現場の写真と恋人モデルの合成で、よりリアルな、若者向け防災シミュレーション本となっている。また、この本を原案にした漫画(古屋兎丸著)も2006年9月に第一巻が発売された。



#### ○「マンガ 大地震サバイバルマニュアル」(岡野公宣著、日経BP社)

家庭でどんな備えをすべきなのか、避難生活に必要なノウハウは何かを、マンガと文章でわかりやすく解説。



○「ぼくの街に地震がきた」(国崎信江原案、ポプラ社)

地震の瞬間から避難所でのくらしまでを小学生の視点からリアルに実感できる大震災体験まんが。



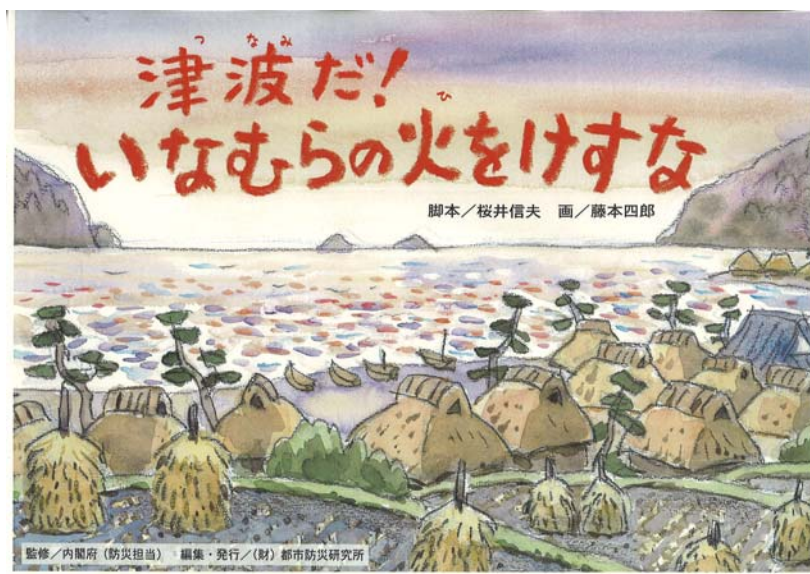
4. 絵本、紙芝居

○紙芝居「津波だ！いなむらの火をけすな」(脚本／桜井信夫、画／藤本四朗)

監修／内閣府(防災担当)、編集・発行／(財)都市防災研究所

「稲むらの火」は、一人の老人が地震後、津波が襲ってくると予感し、収穫した大切な稲むらに火を放ち、多くの村人を救った感動の物語。

この紙芝居は、ラフカディオ・ハーンの「A Living God」や中井常蔵の「稲むらの火」を参考に、また防災教育の教材として使われることを念頭において、地震の揺れが激しかったこと、堤防を築いたこと、地元では今でも津波まつりをしていることなど、できるだけ事実に基づくよう編集されている。



- 「こども地震サバイバルマニュアル」(国崎信江著、ポプラ社出版)  
「じしんのえほんーこんなときどうするの」(国崎信江著、ポプラ社出版)  
小学生から読め、親子ですぐ取り組める、こどものための地震防災ガイド。



## 5. ゲーム等

- テレビゲーム「絶体絶命都市2」(2002年4月発売、PS2対応)  
地震によって起こり得る災害(ビルの崩落・生き埋め・建物の火災など)から身を守り、救出地点を探し出すアドベンチャーゲーム。



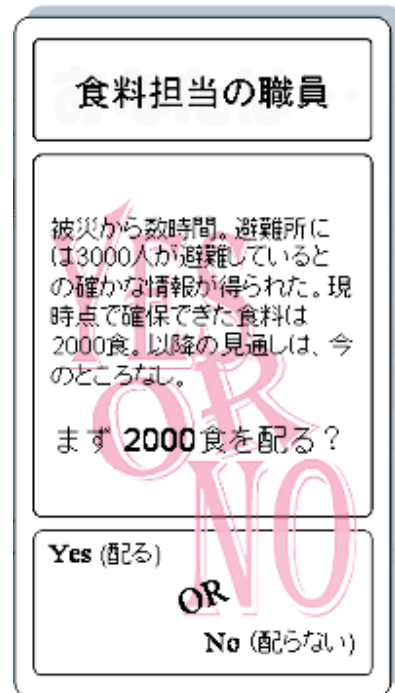
○災害対応カードゲーム「クロスロード」(2004年7月成、京都大学生協・Webで購入可能)

自治体職員向けの【神戸編・一般編】、自主防衛組織・災害ボランティア向けの【市民編】があり、地域防災研修や小学校・町内会で活用が可能。

文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト(林春男研究グループ)の成果物。

「人数分用意できない緊急食料をそれでも配るか」など、阪神淡路大震災の際、神戸市職員が実際に迫られた状況が書かれたカードが提示され、参加者は「Yes」か「No」のカードを伏せたまま出す。全員が一斉にカードをオープンし、多数派に入った参加者が勝つ、というルール。

防災に関する困難な意思決定状況を素材とすることで、決定に必要な情報、前提条件について理解を深めることをねらいとしている。



○「津波対策いろはかるた」

岩手県大船渡市三陸町の津波研究家山下文男氏が、1957年12月に盛岡気象台長の注釈付きで公表されたものに、被害写真などを付けた形で製作を検討中。(2006年9月15日：岩手日報)

○「ぼうさいダック」(テレビ朝日映像(株)にて購入可能、大判、トランプ判、解説ビデオ)

幼稚園から小学校低学年の子供を対象にした、お遊戯型の安全教育教材。自然災害・火災・交通事故・誘拐などから身を守るための最初の第一歩を学ぶ。



なお、「ぼうさいダック」に関しては、2005年12月9日の第1回専門調査会で、吉田委員の報告「日本損害保険協会の防災の取り組み」にて紹介がなされている。

- 「ドリル DE 防災 Part2ー災害からあなたを守る国語・算数・理科・社会」（1996年3月発行、日本損害保険協会、郵送料のみ申込者負担にてWebより申し込み可能）  
防災に関するさまざまな情報や知識を、ドリル形式（クイズ形式）でまとめているもので、比較的簡単な問題から、大人でも頭をかかえる問題まで、家庭で問題を出し合い防災を楽しみながら学ぶ。



- 「阪神淡路大震災双六」（飛び廻り21：神戸市東灘区のボランティア団体）  
飛び廻り21の依頼で姫路市の版画家岩田健三郎氏が作成。地震発生から復興までを描いた20コマで構成されている。写真は、2006年1月21日、東灘区の御影北小学校での「すごろく遊びでぼうさい学び」の様様。



- 「大ナマジン 防災すごろく」（京都大学生協・Webで購入可能）  
子供からお年寄りまで、災害への備えを遊びながら確認できるもの。矢守克也助教授（京都大学防災研究所）、吉川肇子助教授（慶應義塾大学商学部）などが作成。



- 『『仮想生活ゲーム』で学ぶ一家計支出と自己責任』（2005年5月、日本損害保険協会作成の中学校・高校生向け授業用キット、日本損害保険協会のH.P.より無料でダウンロード可、動作環境：Windows98・98SE・XP）

中学校及び高校における社会科や家庭科、総合的な学習の時間等の授業での活用を目的として作成されている。日常生活で起こり得るさまざまな事故や災害等を体験、それをくぐり抜けながら、2年間家庭の経済生活を維持できるかを競う体験型「仮想生活トランプゲーム」。



- ゲームブック「シティ・サバイバル」（さいとう たかを著、アスキー出版）

M7.9の巨大地震が発生した過密都市を舞台に、読者の判断や意志によってストーリーが展開してゆく。ゲームを通じて、巨大地震を生き抜くための知識が身につく。

